



わたしも
ひまわり

小さくなった
衆楽園の桜
どうしたの？

最近、衆楽園の枝垂れ桜を
目にしたのですが、数年前と
比べてずっと小さくなってい
ました。何かあったのでしょ
うか。(原外・男性)
衆楽園の枝垂れ桜は、山口
誓子が「絲桜水にも地にも枝
を垂れ」と枝模様のすばらし
さ、満開の桜が水中に咲いて
いるかのように見える美しさ
を詠んだ衆楽園の名所の一つ
です。
その枝垂れ桜が一昨年ごろ

から枝先や幹が枯れ始め、樹
木が弱ってきました。詳しい
原因は分かりませんが、樹木
医にも相談し、腐朽が進行し
ないように枯れ枝を撤去、幹
の治療などを行いました。ま
た、根が衰弱していることが
考えられるため、根の活性化
も施しました。現在は枝が短
くなっていますが、来年には
枝が伸びてくるものと期待し
ています。

また、昨年、池にいたコイ
が病気になる、すべてのコイ
が処分されましたが、10月に
ニシキゴイ35匹を寄付してい
ただきました。

衆楽園は、秋の紅葉、冬の
雪化粧も絶景。季節ごとの調
和の取れた美しさは、園外の
喧騒とは離れた幽玄な世界を
醸し出しています。ぜひ、四
季折々の洗練された美しさを
感じにご来園ください。



問い合わせ先 公園緑地課
☎32・2097

夫したところですね。つやま市民スポーツ祭でも、
子どもから高齢者まで約130人の市民に楽しんで
いただきました。

場所もとらず、少人数でも楽しめるゲームです。
現在、津山総合体育館に3セット用意されており、
今年度中には各支所にも備え付けられる予定で
すので、ご利用ください。

皆さんから要請があれば、体育指導委員が「ダ
・ピンゴ」を始めとするニュースポーツやさまざ
まなレクリエーションの指導に出掛けます。ぜひ、
気軽に申し込んでください。

ニュースポーツ「ダ・ピンゴ」



問い合わせ先 スポーツ課 ☎24-0202

わたしのおすすめ

「ダ・ピンゴ」でみんな楽しく元気に!



津山市体育指導委員
江原 圭祐さん(国分寺)

「こけないからだ講座」の
手伝いに行った時「グラウン
ドゴルフで健康づくりをして
いたのにできなくなった」と
いう高齢者の声を聞きました。

講座は公会堂のような狭い所で行うことが多く、
体操以外には輪投げぐらいしか運動することがで
きません。そこで考案したのが、室内でできるニ
ュースポーツ「ダ・ピンゴ」です。

グラウンドゴルフのクラブとボールを利用して、
ピンゴに見立てた的にボールを入れ、点数を競う
ゲームです。縦・横・斜めの1列にボールを入れ
るとピンゴとなり、点数は倍になります。的の手
前で止まってしまったボールは自分で的の周囲に
ある溝に入れに行きます。少しでも立ち上がって
歩くことで足腰を鍛えてもらうようにルールを工

未来をひっばる 津山人

古代ロマンに夢を馳せて

恐竜復元アーティスト
田淵 良一さん(上田邑出身)



恐竜の骨格を木で再現する恐竜
復元アーティスト。博物館並み
にクオリティーの高い作品を制
作する田淵さんにお話を伺いま
した。

なぜ恐竜模型を制作するようにな
ったのですか？

10年以上前のことですが、偶
然扱っていた木片の中に恐竜の
頭骨が浮かんだような気がした
んです。それを彫り起こしたの
が始まりです。

恐竜はバラエティーに富んだ
魅力ある形をしているので、一
つ作るとほかの種類も作りたく
なりますね。

粘土で作ることが多いと思うの
ですが、なぜ木で制作を？

手元に粘土がなく、たまたま
木材があったんです。
木で制作するうちに、温かみ
や質感などの優れた性質や保存
性、加工性、強度など、木の素
材としての素晴らしさを再認識
しました。かなり細い部材でも
木目さえ一致すればかなりの強
度になります。粘土ではそう
はいきません。いろいろな木を
試しましたが、今は専らトチノ
キを使っています。木目が密で
木肌も色合いも美しく、粘りも
あって最高です。

何を参考に制作するのですか？

図鑑を見ると恐竜の化石など
とともに、生きていた時の姿が
復元された絵が載っているよう
に、全身の骨の50%程度が発見
されただけで恐竜の姿を描くこ
とができます。しかし、生きて
いた時の恐竜の姿、骨格をでき
るだけ忠実に再現したいと願っ
ていますので、制作にあたって



▲スピノサウルスとティラノサウルス

示。そこには現在も作品が1つ
あります。また、大阪府で発見
されたモササウルスを1/4ス
ケールで制作し、三重県の上野
歴史民俗資料館に展示中です。
今後の夢は？

現在まで、全身骨格と頭骨の
みのものを合わせて、約30種・
約100作品を制作しています。
作品の完成まで半年くらいか
かることもあります。これから
何体作れるか分かりませんが、
少しずつでもいろいろな恐竜を
復元していきたいですね。そし
て、多くの子どもたちが恐竜に
興味を持つきっかけを作れると
うれしいですね。

は、とにかく資料を調べます。
今は便利な時代で、欲しい学
術論文も結構手に入ります。ま
ずはそれらを学習。同時にあり
とあらゆるインターネット上の
資料を調べ、骨格が欠けている
部分があれば近縁の種類の恐竜
から類推します。そして図面を
描きます。描くことによって、
見ただけでは気付かない細部を
認識することができます。
どうやって制作するのですか？
木目を考えて木に図面を取り、
糸鋸機械でくり抜き、荒削り、
ルーターという回転器具で少し
ずつ削って仕上げていきます。
大変なのは頭の内部構造。場
合によっては頭骨を縫合線で分
解して、内部を構築してから組
み立てます。骨を1個ずつな
ぎ合わせるの、多いものでは
300〜400ものパーツにな
ります。完成時の姿勢は普通の
立ち姿で表現します。もつと骨
格筋の勉強をして、躍動的な姿
勢がとれるようにしたいですな
どこで見られますか？
作品はインターネット上で公
開しているので、制作方法の問
い合わせが世界各国からありま
す。津山にいた時には市立図書
館で展示させていただきました。
昨年は大阪の阪急百貨店、今年
は愛知県の生命の海科学館で展

16年ほど海外で教員生活を送っ
た後、津山で小学校講師を勤め
現在は大阪で勤務。子どもたち
から「タプリン」と親しまれる
田淵さんは、津山でパレオパラ
ドキシア(1300万年前に絶
滅した哺乳類)に続く古生物学
上の発見があることを期待して
いるそうです。